

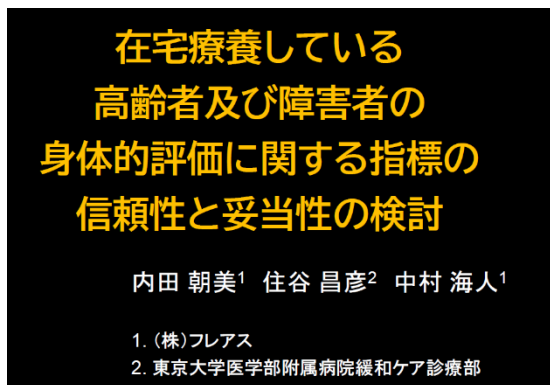
日本ペインクリニック学会 第 56 回学術集会 参加のご報告

2020 年 12 月より、効果のある施術の提供による利用者満足度の向上のため、国立研究開発法人産業技術総合研究所柏センター（産総研）とアセスメントの標準化や施術プランの効率化のための技術コンサル、東京大学医学部附属病院緩和ケア診療部の住谷昌彦准教授と疼痛コントロールに関する効果検証を行ってきております。

この度、その検証データの解析のなかでフレアスが採用している基本動作能力の評価指標「BMS（Basic Movement Scale）」が介護業界で広く使用されている ADL 評価である「BI（Barthel Index）」と遜色ない評価指標であり、評価が実施できていることがわかりましたので、日本ペインクリニック学会 第 56 回学術集会にて発表させていただきました。

一般演題（口演） 44	
[痛みの評価・診断法]	
座長：鈴木 孝浩（日本大学医学部 麻酔科学系麻酔科学分野）	
044-1	帯状疱疹関連連痛患者における条件刺激性疼痛調節 仙台ペインクリニック 伊藤 裕之 ほか
044-2	脳脊髄液中の生理活性脂質における疾患特異性の検討：診断マーカーとしての有用性について 東京大学医学部附属病院麻酔科・痛みセンター 井上 玲央 ほか
044-3	在宅療養している高齢者及び障害者の身体的評価に関する指標の信頼性と妥当性の検討 (株)フレアス 内田 朝美 ほか
044-4	ペインクリニックでの心理的介入の現状と課題 大阪なんばクリニック ペインクリニック科 兵 純子 ほか

今回は、発表させていただいた内容を動画とともに資料の一部を公開させていただきます。



左の画像をクリックすると発表動画が再生されます。

■ 表題

「在宅療養している高齢者及び障がい者の身体的評価に関する指標の信頼性と妥当性の検討」

■ 対象者

弊社訪問鍼灸マッサージ施術を受けている利用者 245 名（平均 81.3 歳）

■ キーワード説明

BMS とは、（Basic Movement Scale）とは、...

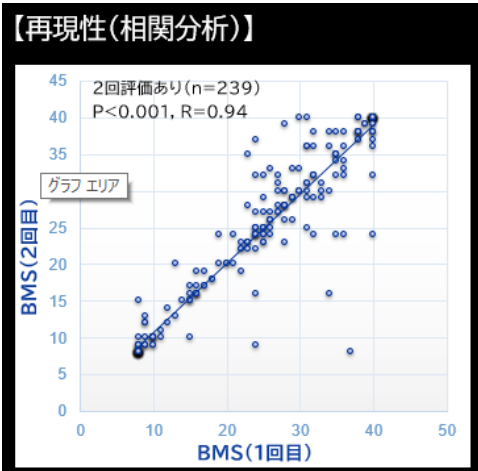
① 寝返り、② 起き上がり、③ 端座位保持、④ 立ち上がり、⑤ 立位保持、⑥ 着座、⑦ 乗り移り（移乗）、⑧ 歩行の ADL 内容 8 項目を、各 1（できない）～5（補助無くできる）で評価する指標で、40 点満点で自立、0 点で寝たきりという基本動作能力となります。

BI（Barthel Index）とは、...

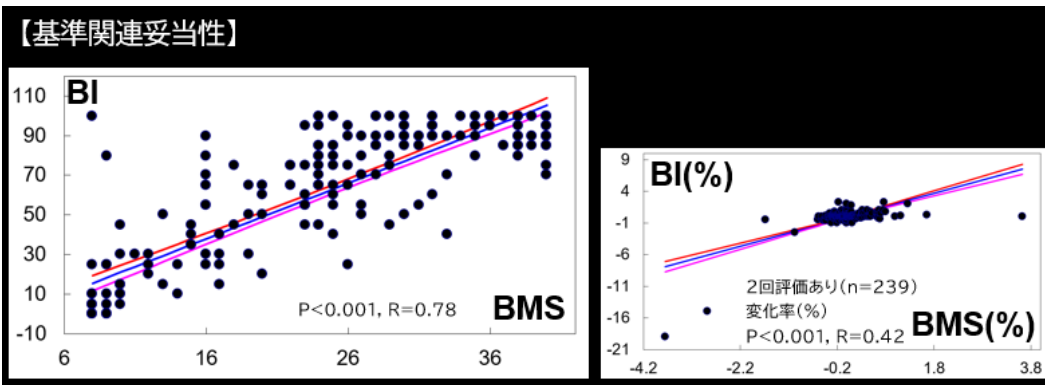
① 食事、② 移乗、③ 整容、④ トイレ、⑤ 入浴、⑥ 歩行（移動）、⑦ 階段昇降、⑧ 更衣、⑨ 排便、⑩ 排尿の ADL 内容 10 項目を、うち 2 項目（移乗、歩行）は 0,5,10,15 点の 4 段階で、残りの 8 項目は 0,5,10 点の 3 段階で評価する指標で、100 点満点で自立、0 点で寝たきりという ADL 状況を示しております。

■結果

内部一貫性（内部一貫性とは、いくつかの項目を総合して一つの尺度となる値を構成したとき個々の項目が測定の目的に応じて一貫した方向性を持っているか？の指標で、1に近いほど信頼性が高いとされている）の指標である Cronbach's α 信頼係数が 0.98 と非常に高い結果が得られました。



基準関連妥当性の相関分析では、相関係数 $R=0.78$ であり、変化率についての相関係数も $R=0.42$ でした。



■考察

ADL の変化について高い相関あり、感度は BI と同等であると考えられます。

BMS は ADL の運動機能に特化した評価として挙げられます。